



## ○ 普通

「この〇〇についてどう思われますか？」などと問われたとき、「普通。」と応える場面(人)がかつて多かったように思います。最近あまり聞かれなくなったような気がしますが、どうでしょう？

中学校や高等学校の成績付けによく五段階評価が使われます。5=たいへんよい、4=よい、2=少し悪い、1=悪い、3=普通、でしょうか？かつては相対評価でしたので、それぞれの段階に%があり、5を付けてもらえる人が必ず少人数はいました。同じように1を付けなければならない人も必ず少人数いました。3は%が最も多く設定されていました。私の担当教科は美術でした。生徒の作品を点数で表現しにくく、1を付けるときには特にその対象生徒に申し訳ない気持ちでいっぱいでした。現在は絶対評価となっているはずですので、基準(規準)をどの程度達成しているかどうかで成績が付いていると思います。5の人数が大変多い時もあれば、1は一人もいないということもあり得ます。

「普通」というのは何とも理解しがたい表現ではあります。そのため最近のさまざまな評価は4, 3, 2, 1 というような四段階評価を採用することの方が多くなるように思います。どちらかというといよい(賛成)のか、どちらかというといよくない(反対)のかをよりはっきりさせることには適しています。

本校でも学校評価を行っています。今年は昨年度までの形式を踏襲して五段階評価で実施しました。学生による授業評価の評価規準は次のように表現されています。5=期待する水準を大きく上回っている、4=期待する水準を上回っている、3=期待する水準とほぼ同程度である、2=期待する水準をやや下回っている、1=期待する水準をかなり下回っている、というものです。この表現をどう解釈するかということには個人差があるように思います。期待する水準とほぼ同程度であれば、ほとんど改善の必要がなく素晴らしい授業であったと判断されたといえるのではないのでしょうか。この判断は人によっても違うことでしょう。また、5, 4, 3, 2, 1 という数字だけ見れば、3は「たいしたことない」というふうにも思えてきますので、期待通りであれば4以上を付けそうですね。来年度の学校評価では五段階を見直すか、評価規準の表現を見直すかということは今私は考えています。

以前にも記述したことです。障害のある部分を補うための教育は今「特別支援教育」と表現されています。かつては「特殊教育」という少しきつい表現でした。クラスのことを「特殊学級」と言っていました。それに対するような表現として「普通学級」「通常学級」ということばもありました。当時の私は「普通」って何なのだろうとよく思っていました。ちなみに今は学校ごとにいろいろな表現をしていると思います。「親学級」というような表現もあります。「〇-〇組」とか「〇〇学級」というものもありますね。ちょっとそれますが、高等学校の「普通科」というのもよく考えてみたら不思議な科名ですね。どちらかと言えば「進学科」の方が内容はより伝わることばかもしれません。

「普通列車」という表現があったのでしょうか？「鈍行列車」とも言いました。「各駅停車」という表現の方がよさそうですね。どういう停まり方をするのかが分かりやすいですね。「普通」ということばはできるならば遣わずに、より分かりやすいことばを選んでいきたいと私は思っています。

## ○ 自校自費

今回のメニュー：洋菓子  
＜パリブレスト＞

真ん中の大きなドーナツ型のものが課題で、他は各班が工夫した形です。富士商の湯城先生に教えていただきました。

